

平成 27 年度 「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)
1 対 1 対談 (大台町) 会議録

1. 対談時間

平成 27 年 7 月 23 日 (木) 16 時 00 分～17 時 00 分

2. 対談場所

奥伊勢フォレストピア 1 階交流会場
(多気郡大台町菌 993)

3. 対談市町名

大台町 (大台町長 尾上 武義)

4. 対談項目

- 1 林業大学校設置について
- 2 森林整備予算の確保について
- 3 お茶農家への各種支援と販路拡大の取組について
- 4 宮川の堆積土砂の除去について
- 5 伊勢志摩サミット開催による波及効果について

5. 会議録

(1) 開会あいさつ

知 事

今日は尾上町長お忙しい中、ありがとうございます。また、大台町議会からも議長はじめみなさんどうもありがとうございます。

まず始める前に、先般の台風 11 号では、県内の中で、この宮川が一番多く累積で約 700 ミリ、平年の 7 月の降雨量の 2 倍に及ぶ、そういうような雨が降りました。大きな被害はなかったものの、町民のみなさんの不安であるとかそういうものなどについては、大きかったのではないかと思います。これからも一緒になって災害対策、風水害対策も含めまして進めていきたいと思うところがあります。

それから、今年 4 月に大台厚生病院が大台町にオープンをし、特に人工透析などの方々を中心として地域の医療として重要な役割を担い、また一方で精神的な病床も入るような機能を有し、私共も期待をする病院であります。今回、私がヨーロッパに行ったときも総合診療院、かかりつけ医的な重要性、そういう人が地域医療において病気を診るというよりは人を診る、そういう形で地域医療が進展していくことが必要だと感じることもありました。是非大台厚生病院がみなさんのご協力で地域医療にとって重要な拠点となっていくように、

我々もしっかりサポートしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げたいと思います。

また、昨年4月には、大杉谷の登山道、遊歩道が10年ぶりに開通したということで、今年も4月に山開きが行われたと聞いています。これからも情報発信、この大台町、あるいは宮川の大杉谷大台ヶ原の素晴らしい自然を共にPRできるように頑張ったいと思います。

今日は、限られた時間でありませけれども、是非有意義な時間にしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

大台町長

それでは、知事大変お忙しい中を、遠路旧の宮川ですけれども、お越しをいただきまして、お礼を申し上げたいと思います。毎年このようにして知事と1対1対談できておりますこと、本当に感謝申し上げたいと思います。

伊勢志摩サミットは、開催が決定をされて本当に喜んでいたところす。知事の方も早速イタリアをはじめロック・アーンとか色々な所を回られて帰って来られて間もないような頃に、本当にこう若さを爆発させるような行動力で、本当にありがたいなと思っているところでありませ。そういうことで、我々も伊勢志摩サミットについても協力はできるところはしていかなければならぬなという思いもございませし、この後もちよっとお願ひ事もあるわけですけれども、またお聴き取りいただきたいなというところでもございませ。

大台町も現在いわゆる地方創生という形の中で、人口ビジョンなり総合戦略作りに地域懇談会を開催したり、あるいは創生会議、西村副学長を座長に進めさせていただいているところす。庁内でもワーキンググループを立ち上げて、それぞれ細かく議論をしながら、45年後、2060年の姿どうあるべきかということで、議論が進められているところでもございませ。また今後ともご指導いただきたいなと思っているところでもございませ。

この施設に知事が初めてお越しになられたということでもございませが、平成9年に当時の山本泰助という村長がみえまして、ここにホテルを作るのだというようなことでもございませ。「こんな所にホテルを作るなんて」ということで、当時の村民は本当にあたたいような所があったわけす。やはり座しては死んでしまうというような状況の中で、この奥伊勢フォレストピア、あるいは林業会社のフォレストファイターズとか、三交ホームと提携して住宅構造物をプレカットするMSPという会社を立ち上げたり、あるいは農林水産物を加工して販売する宮川物産、こういったものを立ち上げて地域の活性化を図ったいこう、少しでも人口減少を食い止めようとする行動が既にあったところす。しかし、それでも人口はどんどん減少しながらきているというようなこと

でございます。これからも人口減少はやむを得ないと思っておりますけれども、どれだけその減少度合いを緩やかにできるか、そこにこれからしっかり努力していかなければならないと、思っているところでございます。それは、県とも協働しながら進めてまいりたいと思っておりますので、またよろしくご指導いただきたいというふうに思っております。

今日は、これからの地域づくりに向けて有意義な時間を持つことをお願いしながら、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(2) 対 談

1 林業大学校設置について

大台町長

それでは、1 番目の「林業大学校設置について」、お願いをいたしたいと思っております。

三重県の中勢南部については、県内でも特に林業が進んでいる、盛んな地域であります。そういうことで、当町でも作業道の敷設なり、あるいは高性能の林業機械、こういったものを導入しながら、搬出間伐を中心にして積極的に取り組んでいるところでございます。また、急峻な地形が多いということもございますが、皆伐は元より搬出間伐の架線集材というものが威力を発揮しているということで、これを積極的に導入しています。他にも獣害対策ということで、担当の方がパッチディフェンスというのを考えて、小さな 10 メートル四方の中に植栽する方法を考案しながらやっております、実際にその成果は上がってきています。パッチディフェンスによる地域性苗木、そういうものを活用した広葉樹の植栽なども進めています。しかし、ご案内のように木材価格が長期の低迷をしているということもございまして、価格の低迷なり、あるいは住宅産業、いわば国産材住宅の着工が少ないというようなこともありまして、なかなか明るい兆しが見えてこないという状況がございまして、後継者問題と相まって、非常に深刻な問題にもなってきているところでございます。こういうことから、先程の知事の政策集にもある、林業大学校の設置ということは、地域の林業振興なり、あるいは地域振興に大きく貢献していくものだと考えております。町内にも県立の昴学園高校がございまして、そういった高校との連携を視野に入れながら、安定的に林業へ興味あるいは関心を持つ若者を確保していくことというのが非常に大事であるのかなと思っております。これからの地方創生、そして林業の自立、林業後継者の育成等を目指す上で、この町での林業大学校の設置というのは、非常に期待を大きく持たさせていただいているとこ

ろでございます。

他にも候補地があると思いますけれども、合併当時の宮川村役場、今は総合支所になっておりますけれども、この2階部分が全部空いています。あるいは先程大台病院の話が出ましたけれども、例の報徳病院が全部空いているということもございますので、そういったような施設があるということ。また町有林が2000ヘクタールほどございますので、その町有林の活用というようなこともあるかと思っております。大学校の設置については今後しっかりとご検討いただきたいなと思っております。聞くとところによりますと、学校教育法なり、あるいは県条例で設置をしていくということになるかと思っております。学校教育法設置ですと大学への編入が可能とか、あるいはカリキュラムを全てこなす必要があるという反面、県条例設置でいきますと自由度が少し高くなると聞きます。色々意見とかあるのかなとおもいますが、そういうものもクリアしながら、なんとかこの地に設定できたらなと思っておりますので、また知事のご協力を承りたいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

知 事

はい、ありがとうございます。僕が、知事選挙の時に林業大学校の検討と書かせていただいた背景を、町長よくご存じだと思いますけれども、改めて話させていたただきたいと思っております。

まず、三重県の森林全体で50年を超えるものがだいたい55%くらいを超えてきまして、ちょうど利用可能、伐採の時期にきていますよという森林の状況にあるけれども、実際にそれを伐っていく人間の担い手の確保というものが、先程町長もおっしゃっていただいたとおり大変重要な課題になってきています。一方で、三重県の林業従事者数、林業に従事している人の数なのですが、平成17年の国勢調査で、だいたい1047人です。その1047人というのは、昭和55年の4分の1くらい的人数なのですが、直近は1255人で僅かにですが増加しています。しかも、加えてこの5年間でその年齢構成が60歳以上の人の割合が今まで50%くらいだったんですけど、それが34%に減って、加えて40歳未満の割合が17%から28%に増えたということです。だいたい新規の就業者数が年間40人程度いるということで、これはチャンスではないかと思っております。今こうして多くのみなさんのご努力で僅かながら林業従事者数が増えてきている、しかも若い人たちが年間40人くらい増えてきている。ではこの子たちに実践の経営とか、今までの林業と違って、コストの計算もしっかりする、販路の開拓もしっかりやる、そういうような技術も開発していく、そういうような形の経営感覚を持ちながら実践的なことをやっていかなければならないと思っております。もちろん今増えているのは、森林組合に雇用されるという形で入っ

ていく人が多いのですけれども、そういう形だけではなくて、実際に経営していけるようなノウハウを持った人たちを増やしていかなければならないと思ひ、ここが人材育成のチャンスだろうと考えました。併せてちょうど今年の2月に長野県の林業大学校に行ってきました。木曾町にある所なのですけれども、もともと御嶽山の噴火があつて、その激励みたいなものも含めて知事会議をしてきたのですが、そこで林業の学生たちと喋らせてもらつて、なかには三重県から来ている子も2人くらいいました。林業を学びたいと思つてここへ来たというようなことを言っていました。なので、こういう人材育成、あるいは林業をめぐる状況を踏まえて、なんとかもう少し研修とかを充実させてきているところではあるのですけれども、今言つたような実践的なノウハウとか、あるいは経営的な感覚とか、そういうことを含めた人材育成をもっと充実していきたいというのが背景の思ひとしてありました。

これから検討の方法なのですけれども、まず先進地、最近作つたような所、例えば京都が平成24年に京都府立林業大学校を作りました。そして、高知が高知県立林業学校を今年開校です。こういう所の情報収集しながら、有識者の検討会議というか、有識者に色々聞いたりする形になると思ひのですけれども、それで聞いて、どういう人材像を目指すのかというのが結構大事だと思ひます。つまり、先程の長野は学校を卒業した子を育てて林業に入れますという大学校になっています。例えば三重県の場合、そういう新卒の子がいいのか、あるいは、先日の土曜日みみやがわ森選組のみなさんとすごいやんかトークをさせていただきましたけれども、彼らは違う職業から林業に就労するために色々学んでやってきた、そういう新卒ではなくて新規就労みたいな人たちの所を鍛えるのがいいのか、あるいは、既に林業をやっていて、これからのリーダーみたいなのを育てるようなそういう教育がいいのか。そういう人材像を明確にしていこうということと、当然現場のみなさんのニーズを聞こうということと、設置の場所などについては、費用対効果ですね、やはりなるべくコストを削減したいし、実習林とかの確保が近い所でできるかどうかとか、そういうようなこととかも含めて検討していこうと思ひています。林業に関わるような市町のみなさんには、どんどん積極的にお話を聞いていきたいと思ひていますので、また大台町からも色々な提案をいただいたり、事務的にも議論させていただければと思ひます。もしかしたら、いきなり林業大学校に行く前に1回例えばなんとかコースみたいなものを設けて、暫定的にやってみていくとか、久居農林高校の時の経緯なんかも踏まえながらやらないといけないと思ひています。林業そもそも長いスパンの話ですから、しっかりニーズや人材像を踏まえた形でやっていきたいと思ひています。

昴学園との連携についても、もし仮に大台町に林業大学校が出来て、そのの

みなさんと連携したりしたら、昴学園の子たちにとっても良い刺激にもなると思いますし、良い経験にもなろうかと思えます。林業大学の検討を進めながら、そういうコラボレーションを他にもできないか、より色んな効果が出るようなことがないかというようなことも併せて検討していきたいと思えます。色んな提案を受けながらやっていきたいと思えます。政策集に林業大学と書いていたのですが、あまり聞いてもらえなくて寂しい思いをしていたので、今日大台町長に聞いていただいて大変嬉しく思うわけなのですけれども、是非一生懸命検討して良いものになるようにしていきたいと思えますので、またご指導いただければと思えます。よろしくお願ひします。

大台町長

ありがとうございます。これから一学年の定員をどうするのかとか、どういう人材といひますか、卒業後の民間での受け皿、就職面も含めて受け皿がしっかりあるのかどうかとか、そういった規模なども考えていかなければならないのかなと思ったりしています。そのような色んな人材といひのが、ただ木を切るといひだけではなくて、今言われたようにコスト意識なり、そういう部分が本当に大事になってくることもありますので、是非とも設置が必要かなと思っています。色んな角度からご検討いただく中で、より大台町を頭の中に入れていただければと思えますので、よろしくお願ひしたいと思えます。ありがとうございます。

2 森林整備予算の確保について

大台町長

次に、「森林整備予算の確保について」といひことで、これまで知事の方にもお願ひしたこともあるわけですが、とりわけ28年度の国の予算ですけれども、森林整備予算が大幅に減少していくのではないかといひ情報がござひます。今後も地球温暖化対策を推進していくといひことで、林業の振興といひのは欠くべからぬものでござひますので、森林整備予算の確保といひのは、非常に重要だといひ思いを持っております。国の方も今年の6月、地球温暖化対策の森林吸収源対策といひことで、経済財政運営の改革基本方針で、2020年以降の温室効果ガスの削減目標設定までに具体的な姿に近づけないといひけないといひ事で、12月末のCOP21までに決着をつけるスケジュールを確認される、いひことで一定のものが出てくるのかなと思っております。これまでの予算の流れを見てみますと、繰越とか、あるいは補正予算とか、そんな対応でなんとか前年に対して100%くらいの予算額を確保してこれたのです。三重県の予算を

見ておられます、とりわけ森林整備の加速化、林業再生交付金という名前に変わってきておりますけれども、この部分が森林整備には充てられないということになってきており、かなり落ち込みが大きい。これまでも三重県にだいたい10億前後あったのですが、6億2千万ちょっとということで、かなり落ち込みがあるということでもございます。森林整備の中でも、この加速化あるいは林業再生交付金の予算を継続して確保するよう、なんとか国の方にご要望いただきたいと思っております。

この部分、非常に厳しい状況になるのかなと思っておりますけれども、2つ目には、森林整備の安定財源ということで、新しい環境税の創設をなんとかできないかなと思っております。先程の森林吸収源対策の確保と併せて、環境省の方には、自然環境の保全を目的とした新税の創設が検討されているようでもございます。森林吸収源対策と新税が一本化されて検討されていくという情報もありますが、いずれにしても、この財源確保に向けて、今後国の方にしっかりと訴えていただきたいなと思っております。

そういうことで、国の方にはしっかりとお願いをしたいということともう一つ。昨年からみえ森と緑の県民税を、知事の決断で実施をされており、この使い道についても十分理解をしているところでございます。ということで、これまで林業の振興と既存事業に充てたいよと、こういう形でできているのですが、実際森林整備をしていく上で、なかなか縛りもきつい部分もあるのかなと思っております。すぐに見直しというわけではないと思いますが、5年後、1年半過ぎてあと3年半くらいですけれども、そういう時期にまた見直しというようなことも必要になるのではないのかなと思っております。少し頭の中に入れておいていただきたいなと思っております。そういうことで、森林整備の予算については、非常に重要で、県も費用負担が生じることもありますので、これらの財源確保についてもしっかりとお願いをしたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

知 事

はい、ありがとうございます。大台町長から3点おっしゃっていただきました。

一つは、加速化基金をはじめとした国の予算の確保については、まったくおっしゃるとおりだと思います。今回の7月27日・28日・29日に行われます全国知事会でも農林商工常任委員会とかその定例の中に林業のことが入っておりますので、しっかり確保できるように取り組んでいきたいと思っております。国補造林の所も減ったり県単造林も減ったりして、ご迷惑をおかけした時も一時期ありましたけれども、しっかり予算を確保していきたい、国の方への働き

かけをしていきたいと思ひます。

2点目は、国の税の關係の話で、おっしゃっていただいたように、地球温暖化との關係での森林吸収源対策として必要な財源を税の一部で森林整備に充てていくというふうなことに付いても、この5月に国の方に行つた時も私どもも提言させていただきました。實際他の自治体でもそういうことで提言しているところが多いと思ひています。自民党のそういうプロジェクトチームでも議論がなされていますので、引き続き働きかけをしていきたいと思ひます。

もう一つは、国の税の中の、町長がおっしゃっていただいた新税構想です。環境省案としては、一人一日一元を国民のみなさんにご負担いただいて、山・海・川を守っていくために必要な整備とかソフト対策に使つていこうという案で、100億くらいの規模でいきたいと私どもも聞いております。特に、積極的に林業の対策とか地球温暖化対策とかをやっている自治体を環境省の担当の審議官の方が回つていただいて、三重県にも来ていただいて、私もお話をお伺いしました。各自自治体でやっている森林環境税がだいたい30数件ありますので、そういうものとの關係をどう整理するか。負担をされたら仮にどういふものに使えるのかということとか、もう少し具体的な制度設計、山・海・川を整備していこうという趣旨、思ひは分かります。単純な負担ではアカンということは理解するものの、色んな既存の制度とかを考えると興味があるので、是非積極的に色々教えてほしいと申し上げているところでもあります。是非そういう点も情報収集、この年末にかけて党の税調とかでも一つ大きな議論になってくるのかなと思ひますので、しっかり注視をしていきたいと思ひます。

それから、みえ森と緑の県民税の件ですけれども、条例施行の時にも5年後、平成30年度になりますが、5年間の事業の成果とか評価とかを踏まえて見直しをすることになっています。この評価委員会というのは、この前もやらせていただきましたけれども、5年経てば本当に、町長おっしゃるように一定の整備が進む所もあるでしょうし、ソフトで色々なこともやつていつて効果が現れてくるものもあるでしょう。一方で一定のルールの中で「これよりこういうものに使えたらよかつたのに」とか「こういう役割は一定終えた」というようなこともあるかもしれません。市町交付金の中のコストの考え方のこととかも含めて、やはり一定の5年間やつてきての見直しというか、新たな改善というか、ブラッシュアップも当然必要だと思ひております。5年を区切りにして、評価委員会は毎年回していますので、その評価を踏まえて必要な見直しをしていきたいと思ひています。そういう際にも是非「こういうルールがこういうことで使いにくい」とか「こういう整備が近々の課題なのに、こういう所には使えない」とかそういう様々な意見交換をさせていただければと思ひますので、よろしくお願ひをしたいと思います。

大台町長

ありがとうございます。またそこら辺の具体的な部分については、これからも提案もさせていただくと思いますので、よろしくお願いをしたいと思います。また、加速化の事業については、県費が出るようになってくると非常にありがたい事業になりますので、是非とも森林整備の中に入るような形でご助力いただきたいなと思っておりますし、我々も団体を通じながら国の方には要請を上げていきたいなと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。ありがとうございます。

3 お茶農家への各種支援と販路拡大の取組について

大台町長

はい。それでは、次の項目は「お茶農家への各種支援」ということでございます。去年あたりからお茶スイーツを町内の団体のみなさん作っていただいて、道の駅を中心にしながら販売をしているのです。それと、私も最近知ったのですけれども、普通お茶は60～70度でお茶を出します。この間のNHKの「ためしてガッテン」見ていたら氷水出し茶というのがありました。普通お湯で出すとカテキンが出るのですが、氷水出し茶はカテキンが出てこずにエピガロカテキンというものがでてきて、少しお茶の味が変わるということがあるようです。今日それをちょっと作っておりますので、スイーツを食べながらお茶も召し上がっていただこうと思っております。

普通水筒の中に温かいお茶を入れると、真っ茶っ茶になってくるのですけれども、僕はまだ試したことはないのですけれどもそれもない。カテキンが出てこないという、いわゆる苦味・渋味がないというお茶なのです。ちょっと濃いめに入れておりますので。

知 事

ああ、本当ですね。苦味が。

大台町長

ありませんでしょう。氷水出し茶ということで、たいへん美味しいです。

本題に戻りますけれども、三重県のお茶の生産は、日本では3番目に入るといことで、ご案内のような形で推移しているのですけれども、取引価格が非常に安く、1キロあたり新茶が採れて一週間くらい過ぎていると700円～800円まで安くなり大変だということが多くあります。茶畑を間引いてソーラーパ

ネルでも置くかというような話になったりとか、茶工場を持っている人は採算が合わずに閉めないといけないとか、中には首をつる人も出てくるのではないかという危機感も多くあるようです。大変厳しい状況で推移をしているところでございますし、とりわけ設備などの更新についても、その時期が来たら、もうそこで終ろうと考えている農家もあるようですので、相当厳しい所まで追い込まれていると実感しております。林業界もそうですが、お茶の業界でも非常に厳しくなってきたということですので。そこで、この伊勢茶の利用拡大、あるいは販売の促進を、我々も農家と連携をしながら取り組んでいるのですが、さらに県ももっと力を入れていただく中で、海外への売り込みとかもっと大きなPR活動を推進するとか、いわゆる伊勢茶を含めてジャパンプランドとして認知もされて、もっと消費拡大に進められるように取り組みをお願いしたいなと思っております。最近、奈良県のあるお茶屋さんが三重県でも去年の2番茶でいいのでお茶をほしい、1キロ当たり5.5ドルでパキスタンとかアフガニスタンに売ってくるんだということで、先だっても20トンほど持って行ったようです。

今後、もっと増えてくるのではないかと考えています。何百トンクラスになるのではないかとと言われておまして、日本中のお茶を集めてこななければならないような、大きな話があるようなのです。そこら辺も一定の期待は持っておりますけれども、いずれにしても、お茶がどんどん出ていくようなそういう状況が本当に必要と思っております。国内ではほとんど、いわゆるペットボトルに押されている中で、急須でお茶を飲みましょうという文化も徐々に減退をしていて、今後お茶の消費減少というのは、まだまだ続くのではないかと考えております。海外も含めて、このお茶の需要化と取引の拡大ということをなんとかできないかと思っておりますので、よろしくお願いをしたいと思っております。

知 事

ありがとうございます。まずお茶の販路開拓売り出し系のところでいきますと、まず輸出の関係は、ミラノに行ってきたして、ミラノの万博の日本館で売買したらダメなので、外にレストランを借り切ってテストマーケティングというのを2週間くらいやってきました。そこでも伊勢茶を出して、お茶をそこで出させていただいてPRさせていただいて、非常に好評でありました。ヨーロッパは特に、衛生基準のトレーサビリティみたいなのを結構うるさく、生産履歴みたいなのを言うので、GAPという制度、ちゃんとした生産履歴で衛生基準とか点検とか評価していますというGAPという制度があるのですが、ほかに残留農薬のことも結構気にされる場所がありますので、輸出の時の「これは大丈夫です」と保証するGAPの認証の取得の支援をやっていると思っ

ています。それから、県内の各種イベントでお茶をしっかりとPRしていこうと思っています。三重テラスでも昨年度も大台茶の新しい商品企画、テストマーケティングをやらせていただいたところでもありますので、プレミアム商品券なども使いながら、しっかりとそういうPRをしていきたいと思っています。また商品づくりも大台オンリーワン紅茶とか、そういうのも農業研究所の茶用研究室で色々商品づくり自体も一緒にやらせていただいているみたいですので、そういう部分もしっかり取り組んで引き続きやっていきたいと思っています。

生産支援部分においても、普及センターの方で特に就農後5年以内の後継者とか、そういうところを重点支援対象に位置付けて、経営管理とか栽培管理のスキルを高める個別指導とかも行わせていただいております。防霜ファンの更新の補助とか燃油の価格高騰対策のこととかこれまでも取り組んできていますので、是非そういう販路開拓の部分とベースとなる生産振興の部分と両方しっかりとやっていきたいと思っています。特に、来年三重県で全国お茶まつりを鈴鹿でやることになっていますので、これも一つのチャンスとして捉えながら、あとは輸出の関係も先程のヨーロッパだけではなくて、去年台湾へ行った時も台湾の向こうの農協みたいなところとうちのJAみえグループと連携の議論をした時も、向こうは烏龍茶ですけれども、お茶で色々協力していこうという話もありましたし、マレーシアのイオンでフェアやった時もグリーンティーが人気がありました。色んなチャンスを掴みながら、やっていけるような努力をしていきたいと思っています。それから、今回サミットがたいへん貴重な機会ですので、どういう形にするかは別として、なんらかお茶についてはPRできる方法を考えたいと思っています。またその辺りについては、今県の方から市町のみなさんから提案をしていただくスキームとかがまだちょっとはっきりしていなくて、情報があまりなくて大変恐縮なところなのですが、いろんな場面でご提案いただけるようなところを作っていきたいと思っていますので、是非またそういう形でご提案をいただければなと思っています。

大台町長

先だって中国の方から、米とかお茶を、いわゆるギフト的にもっていきたいということで、それを大台町で何とかしてほしいという話をいただきました。

知事

米をですか。

大台町長

ところが、やはり検査がありますので、そこはきちっとやっていかなければ

いけないということで、これは少し時間かかるかなと思いますけれども、営業本部の方がみえて「四日市の方にも言うておきます」と、早速対応してくれました。お茶についてもいくばくか出ていく方法があるのではないかなと思っておりまして、中でもその一つのグループでやっている人が津の方で、中国でも3店舗か4店舗くらい持っているそうです。三重大病院の12階で、中華レストラン「四喜折々」をやられている人らしいのですけれど、この間もみえて卵を3ケース買っていくとか、野菜も道の駅で買っていくとか、そういうことがあったようです。これからもそういう生産物がほしいという話があります。その人たちのグループで中国の天津の方なのですが、お茶もということで話が来ているところです。それと共に、具体的になりつつありますけれども、12月8日から20日くらいの間で、大台町へ1泊2日で、大阪なり京都に泊まるのでしょうけど大台町へ来たいという話があります。伊勢神宮から松阪肉を食べたいとかゴルフしたいとかで、お客さんを30人40人連れてくるので、ここからどういうふうに移動したらいいか、そういう部分も具体的に考えてほしいというような話が来ております。はとバスに乗るようなパンフレットを作ってくれというような話も来ています。いよいよインバウンドをやっていかなければならないということで、いわゆる地方創生の総合戦略の中に組み込みながらやっていかなければと思っています。県の方としっかりまたご指導いただかなければならないこともあると思いますので、よろしく願いをいたしたいと思っております。

知 事

そうですね。生産者の方の中には、「うちは輸出とか考えてないから輸出なんか一部の人だ」という話があるかもしれませんが、やはり正三角形の高さを高くしないとすそ野も広がっていかないと。だから、みんながみんな輸出にチャレンジしないかもしれないけれども、そういう販路開拓もやっているぞ、という人が身近にいるということは、全体の刺激にもなると思いますし、そこで新たな技術を身につけていくということになれば、他へも波及していくだろうと思います。お茶に限らず色々な生産者の方に「輸出なんて一部の人しかできない」と言われますけれども、そうではない、みんなでレベルを高くしていかないと全体のすそ野も広がっていかないとではないかと、そういう思いでいます。お茶についても、そういう形で輸出したいという人たちには、チャレンジしてもらえようようにしたいと思いますし、それをきっかけに、先程町長おっしゃっていただいたような、お茶が作られている現場の町に行って、そこで観光をしてみようではないかということになれば更に最高だと思います。そういう部分の支援を、サミットを機に色々な Wi-Fi のこととか言語の案内表

示のこととか、そういうのをなるべく広い範囲で対応ができるようにしていきたいと思っています。それも一つのサミットの資産となるようにしていければと思っていますので、また協力してやっていければと思います。

大台町長

こういうことで、お茶も含めて色んな米・野菜なんかの生産が増えてくると、今の大台町の主力を見ると高齢者が多いのです。一気に若返るというのは、なかなか難しい部分もあるのかなと思いますけれども、この2年半ほどでいわゆる移住された人が63人みえます。

知事

移住してきた人？

大台町長

移住してきた人で、63人いるのです。20代、30代、40代の人で70%を占めているということです。高齢者ではないです。若い人の方が多いということになります。ですので、これからもそういった仕事づくりというものが重要になってくる。仕事があれば、こういった野菜作り、米作り、そういうようなものに関わって、そんなにたくさん採れないかもしれないけれど、何とか生活できているというレベルまでいけば、大台町の農業も捨てたものではないなと思ったりするのです。そういうことで、空き家バンクを含めて、僕もちょくちょく東京の移住センターに寄って相談員さんの所へ寄って来るのですけれども、少しでもこちらを紹介してほしいとお願いもしてきたりします。あの手この手でいわゆる雇用定住というのを果たしていく必要があるのかなと思っていますので、またよろしく願いをいたしたいと思います。

知事

ありがとうございます。せっかく移住の話が出たので、この前のみやがわ森選組のメンバーとの話も非常に良い話でしたので、ちょっと紹介します。メンバーは働く場というのが大事だということと、現実を知りたいと言っていました。良いことばかり言われるのではなくて、「移住してきたら、例えばこういう不便なことがあるけれどもこういう良さもあるよ」と、冷静に現実をしっかりと伝えてもらう方が、良いことばかり言われる地域より信用できる。自分たちは、これから移住を考えている人たちには、そういうことも伝えていこうと思っていますと言っていました。とにかく何でもかんでもバラ色の所に移住したいと思っている人ばかりではないはずなので、そういう現実をしっかりと伝えながら、

その中でも働く場が大事だと強くそのメンバーも言っていましたし、あとは人のご縁というのが大事だと言っていました。空き家バンクのことで、最初知り合った大台町の職員の方が徹底的にちゃんとフォローしてくれたとか、県職員のこともちよっと言っていました。東京の移住センターもこの2ヶ月で136件くらいの相談がありまして、ここで捉まえた人を市町でいかにワンストップの態勢がとれているか、これに成否がかかっている、市町の人と一緒にやらないといけないと、ふるさと回帰センターの理事長も言っていました。是非我々も少しずつ取り組みながら色んな勉強もしていきますので、市町のみならず一人でも多く移住してもらえるように取り組みをまた一緒にやっていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

4 宮川の堆積土砂の除去について

大台町長

それでは、次へいきたいと思っております。「宮川の堆積土砂の除去」ということをございます。今日も知事がこちらにお見えになられる道すがらダムの色を見られたと思っておりますが、台風21号で700ミリの降雨があった訳なんですけど、700ミリで水量が増えて、それ以来ずっと濁りっぱなしという状況なのです。濁りの色はだいぶ薄くなっている状況です。ということで、なんとか上流域にある土砂の除去を、これを引き続き予算確保されながら、取り組みをお願いしたいと思っております。昨年、皇太子殿下にお見えになられた時に、災害の状況を説明させていただく中で、災害前と災害直後、そして現在というような形で同じ地点で写真をお見せした所もあるのですが、まだまだ災害前と比べれば雲泥の差があります。非常にまだ多くの土砂が堆積している中で、新たに600ミリ、700ミリの雨量が降ると、また上乘せして堆積していくという状況がございます。そのことが、やがてはそこに住めなくなってくるというような部分が随分前からそういうことを思っております。現実には岩井という地域の中で川に最も近い家屋があるわけですが、普通の水位から考えて9メートルほど上がりますと、その家は浸かってしまう状況です。こういうことで、ダムの放流についても、非常に神経遣いながら出しています。ならば、より早く水を事前に放流してほしいということでお願いをしておりますけれども、しかし、ある程度圧力がないと出てきにくいという状況もあるようでして、ダム操作は非常に難しいような部分があるようです。そういうようなこともありますので、とにかく土砂をその付近も含めて取り除いていくということが、本当にまだまだしばらくは必要なのかなと思っております。上流域に色々な治山なり砂防なんかも工事していただいております、現在やっております部分もあつ

て、それはそれで本当にありがたい部分なのですけれども、しかし、出てきている土砂を取り除かないことにはダメなんです。ただそれを除去していくのは、どこかに土捨て場を作らなければならないということで、これも難儀しているのですけれども、一緒になって色々駆けずり回っていながら土捨て場の確保もやっているところなのですけれども、肝心要の予算の確保という部分でどうにかしていただきたいという点で、よろしく願いいたします。

知 事

ありがとうございます。この1対1対談をスタートしてから、特に大台町長もそうですし、紀北町長もそうでしたけれども、河川の堆積土砂の撤去について強くご要請をいただきました。現場も大台町長と見させていただいて、平成16年の災害、平成23年の災害、そういうものを踏まえての危険な箇所なども見させていただきました。それ以来、河川堆積土砂の撤去の枠みみたいなものを予算で設けてずっとやってきているところでありますので、来年度についても、しっかりそういうものを確保できるように取り組んでいきたいと思っております。場所自体は、大台町さんと協議しながら進めていくものの、今年度は、引き続き桧原橋周辺の所を撤去させていただこうと思っておりますし、昨年度は、その桧原橋周辺と半次郎橋から岩井橋の間と江馬地内で、砂利採取も活用して採らせていただいたりもしています。是非先程も町長がおっしゃっていただきましたように、残土処分地の部分も一緒にご協力いただきながら、どこを優先的に採っていくかというようなことも、一緒に協議しながら進めていければと思っておりますので、よろしく願いしたいと思います。

大台町長

この種の予算については、何も生産してこないというような部分もあって、非常に予算付けも難しい部分があるのかなと思っております。そこには生活している者がいるということがありますので、その点はまたひとつよろしく願いしたいと思います。ありがとうございます。

5 伊勢志摩サミット開催による波及効果について

大台町長

それでは、今日最後の5点目になるわけですが、「伊勢志摩サミットの開催による波及効果」ということで、願いをいたしたいと思っております。本当にこのサミットが、地元で開催されるということを本当に嬉しく思っておりますし、本県への経済効果というのが物凄く大きなものがあるのではないかと考えている

ところでございます。私共もしっかりと応援していきたいと思いますし、また出来ることありましたら、伝えていただければ何なりとさせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思います。今後とも呼び込み客への波及効果、これが非常に大きいのではないかと思います。最近ちょっと聞きますと、賢島には溢れるくらい人が来ているというような話で、ホテルもいっぱいようです。あの島に入れにくい人が来ているのではないかと考えていて大変結構なことだと思います。我々も来年のちょうど今頃、ユネスコエコパークの拡張登録がされる予定でありまして、それに向けて奈良県の1市5村と大台町とで、協議会ですずっと取り組んでいるところです。この理念であります「自然と人間社会の共生」は、サミット関連で海外から訪れる多くの方に興味を持っていただける部分も多々あるのではないかなと、こう思っております。ということで、伊勢志摩サミットの開催を契機にしながら、県南部地域への波及効果に繋がっていくような取組もお願いしたいなと思っております。

そこで、先日の「ためしてガッテン」の話で、このお茶が出てきて、洞爺湖サミットの時にもこのお茶が出されているのです。凄い値段がするお茶であったようなのですけれども、そういうようなところで、大台町はお茶の産地でもありますので、水なりお茶をなんとか首脳のみなさんに飲んでいただけるような働きかけをしてもらえないかと思います。「あそこで飲んでもらったのは、うちのお茶なんだよ」ということで、大台茶というより伊勢茶ということで、三重県のお茶がまた見直される部分があるのではないかと考えているのです。以前にも、静岡県掛川のかぶせ茶がテレビで紹介されて、高齢者の男性が全国2位で女性が全国1位で長生きの秘訣と報道されて、それ以来、掛川のお茶を手に入れようとすると1ヶ月くらいかかったということもあったようです。そういうようなこともありますので、それこそ全国に売り出すチャンスではないかと思っております。もっと言えば、首脳のうちの1人か2人かその周りの人でもいいので、こちらへちょっと足伸ばしていただいて、ちょうど鮎の時期ですので、この鮎を食べていただいたらまた評判になるのではと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

知 事

ありがとうございます。サミットに関して県の方の情報提供があまり進んでいなくて、各市町のみなさんにどういう提案をいただいてどういう取り組みをしていただけたらいいかという情報提供がまだまだ不十分なところがあり、申し訳ないと思っております。我々も、国がどんなことをどこまでやるか確認できるまで待つ部分もあったのですけれども、そんな国を待たずにこちらからどんどん提案をしていかないとアカンだろうと思っております。市町

のみなさんには提案していただいて、もしかしたら国で断られるかもしれないけれども一緒になって提案していく、そういう意味ではちょっとご迷惑かけるかもしれませんが、積極的に取り組んでいきたいと思っています。近いうちにどういうふう to どういう場面で提案していただいたらいいかというのをお示ししたいと思っています。特に、例えば今のお茶の提案であったり、県で色々提案できる余地がある主なものは、まず1つは、サンアリーナの中に海外のメディアセンターを設置し、世界から海外のメディアが5000人くらい来ます。そこに三重県情報館というのを作ります。北海道の時も作りました。うちも作ろうと思っていますので、そこで、食の関係も提供していけるような形のブースにしていこうと思っていますので、そういう所で県内の市町の物をご提案いただけるようなことも考えたいと思います。それから実際の首脳が食べたりするディナーとか朝食とかランチとかそういうもので何を出すかということも提案できます。それが2つ目です。3つ目は、配偶者プログラムという奥さんあるいは旦那さんに、1泊2日と非常に限られていますけれども県内をいくつか回っていただく際に、どういう場所に行っていただくか、どういう物を食べていただくかということがあると思います。4つ目は、海外のプレスツアーというG7に参加の国以外の中国とか韓国とか台湾とかを今年のG7がどんなことをどんな場所で行われるのかという事前のプレスツアーを一番早いのは秋ぐらいにやります。北海道洞爺湖でやった時は15回くらいやったのですが、私それよりたくさんやりたいと思っていますのですが、そのプレスツアーで例えばこの大台町にも来てもらおうとか、そういう部分の提案をいただく。あとはJサミットと言いまして、高校生たち、これはユネスコが主催するのですけれども、それを数日間、今年はドイツで9日間、一つの地域というか行程がありますので、その間にどこか高校生たちに視察してもらう提案と、少なくとも5つくらいは色んな提案のパターンがあるのかなと思っています。そういう提案を「この場面でこういうプログラムをぜひ！」と言っただけにする仕掛けを考えたいと、仕組みをまたお示ししたいと思います。お茶と県産材については、何らかの形で、大台町のものがいけるかどうかは別として、何らかお茶と県産材というのは、しっかりPRできるような場面を考えたいと思っていますので、また色んなご提案をいただけるような仕組みを考えたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

大台町長

そのついでと言ったらなんですが、警備とか報道とかでもすごい人になるようです。警備だけでも2万数千人という話を聞くのですけれども、昨日も伊勢志摩サミットのご説明を少しいただいたのですけれども、もう鈴鹿とか亀山の

方のホテルまで5月の末まで予約入れないよという連絡が広がっているというようなことです。フォレストピアにも連絡は入っているのでしょうか。入っているなら結構ですけども、入っていないのであれば入れておかなきゃならぬので。営業しつかりやらないといけないので。去年の皇太子殿下がおいでになった時もそうで、数十日間こちらを利用していただいたこともありますので、それは営業の方に貢献する大きな事にもなりますので、一つよろしく願いたいと思います。そういうことで、水なりお茶なりサミットを通じてなんとか使っていただける部分があればと思いますので、よろしく願います。ありがとうございました。

(3) 閉会あいさつ

知 事

尾上町長、今日はどうもありがとうございました。また、傍聴に来ていただいたみなさんもどうもありがとうございました。

特に今回大台町の重要分野であります林業、お茶、それから宮川の関係、そしてサミット、そういう形でご提案などもいただきました。しっかり大台町の現場なども踏まえてこれからしっかり協議をしながら進めていきたいと思えます。サミットも、そしてユネスコエコパークも、本当にチャンスだと思います。特に、来年第10回国際地学オリンピックも日本で初めて三重県で行いますので、こういうのを知ってもらいたいチャンスだと思いますので、是非さまざまな場面を通じて魅力発信をやっていきたいと思えますので、どうぞよろしく願いたいと思えます。今日はどうもありがとうございました。